

インターバンクの声（2016年4月15日）

まだ一日残っているが、今週こまでの為替市場では主要通貨が結構大きく動いた。週初、1.14ドル台で動き始めたユーロは1.1465ドルの高値を付けた後、昨日のアジア時間の終盤に1.12ドル台前半まで下げてきている。1.15ドルを上抜ければ大きく上伸するとの期待が強過ぎたのか、ユーロ圏の指標悪化や原油価格の上昇がドル買いに働いたことでシナリオが狂った。豪ドルは0.75ドル台前半から始まったが、週の半ばになって0.77ドル台まで上昇、一旦100ポイント反落したが、昨日再び0.77ドル台まで戻している。豪ドルの上昇は、原油価格の上昇や中国経済の後退懸念が少し緩和されてきたことが影響した。108円前後で取引が始まったドル円は、週明けの東京市場でいきなり107円台中盤付近まで円買いが進み、これで今週もドルの上値は重くなったとの見方とは裏腹に、昨日までに109円台中盤まで円売りが進んだ。ドル円にも原油価格の改善が効いているが、市場のリスクセンチメントに変化が出始めたのも影響している。今週の変化がそのまま継続か一時的なものに留まるのか、G20の成り行き、米連邦公開市場委員会(FOMC)や日銀の金融政策決定会合の行方がいよいよ重要になって来た。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。